

I 問題の所在と限定

世界・理論

主体・運動

日本・理論

90 フクヤマ「歴史の終わり」
(ヘーゲル「世界史」)

94 サパティスタ

96 コミュニケーション・インター

99 シアトルの闘い

99 南克巳「ポスト冷戦・ネット新世界」

01 世界社会フォーラム

00 ネグリ『帝国』

03 イラク反戦デモ 06 岩田弘『世界資本主義-新情報革命と新資本主義』

09 ホブズボーム「社会主義の失敗、
資本主義の破産、次は」
ジジェク「共産主義だ」

09 塩澤君夫『歴史発展の法則』

ネグリ『コモンウェルス』

09 ロンドン会議「共産主義の理念」

10 ベルリン会議「共産主義の理念」

14 水野和夫『資本主義の終焉
と歴史の危機』

11 アラブの春 OWS

14 丸山眞男生誕 100 年シンポ

11 ニューヨーク会議「共産主義、新たな始まり」

15 石井寛治『資本主義日本の
歴史構造』

12 ハーヴェイ『反乱する都市』



A. 論点

- ① マルクス歴史理論・将来社会・過渡期の再構成
- ② 新しい社会運動
- ③ ポスト冷戦の世界史的段階—
ネット革命とグローバリゼーション

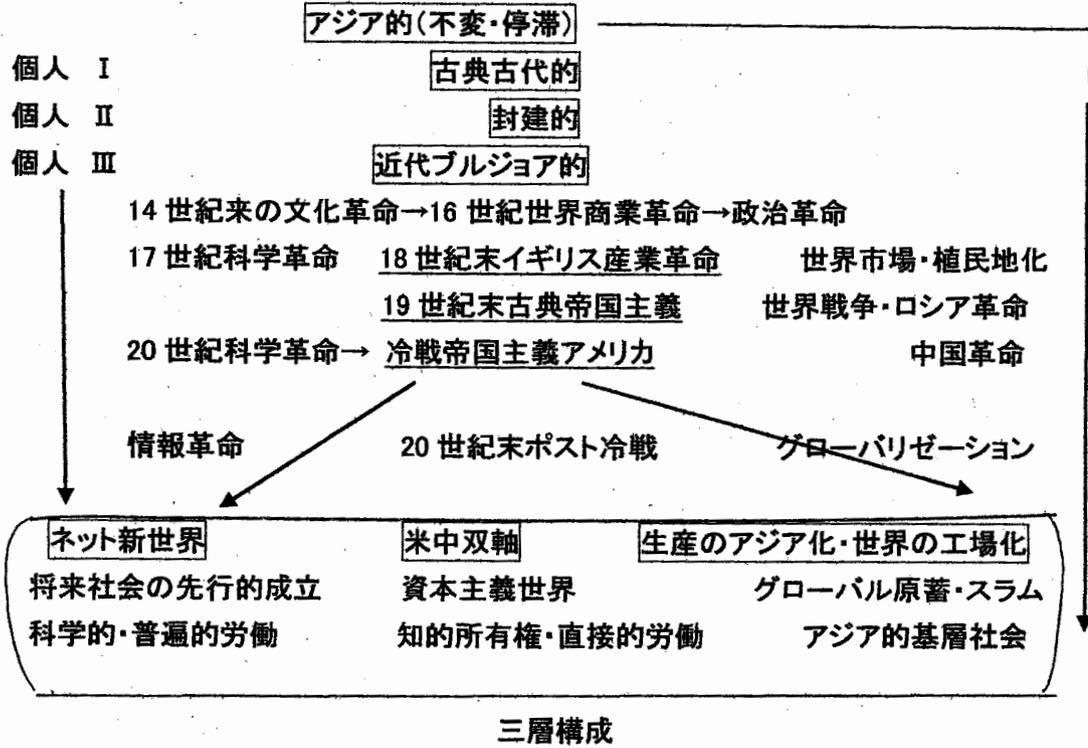
B 位置 —ふたつの過程が重なり合う大過渡期：人類史的過渡期の始まり—

- ① 資本主義の解体と止揚
- ② 人類の前史(階級社会:家族、私的所有、国家、そして宗教)から本史(人間解放)へ

世界史像

21世紀初頭の「横倒しされた世界史」

—人類史的過渡期開始における「不均等発展の同時存在」—



- 論点 1 米ソ冷戦体制解体の世界史的ダイナミズム
- 論点 2 グローバルな三層構成 (生産様式レベル)
- 論点 3 グローバルな労働力構成 (格差と普遍) 2011年運動の意義
- 論点 4 アメリカの自由主義的資本主義ならびにソヴィエトの国家社会主義の止揚形態

深めるべき論点整理

A 基礎理論の再構成

- 1 自然と人間の物質代謝・労働過程論
- 2 過渡期論
 - ① 非物質的・科学的労働の「社会的個体」へ
 - ② 価値法則の止揚と資本・国家の止揚の同時進行→人間活動の全体性の回復

B 現状分析

- 1 資本の存在・統括形態 金融・証券化の歴史的位罫
 - ① 新たな通貨
 - ② レント資本主義（私的所有の究極・最終形態）
- 2 世界の統括形態
 - ① 米中双軸
 - ② アメリカ主導の二つの暴力：対テロのグローバルな戦争と市場の暴力→「世界は apocalypse」（ジジェク・南克巳）

C 対抗・展望

- 1 「二つのアメリカ」のグローバリゼーション
：新自由主義のグローバリゼーション vs 社会運動のグローバリゼーション
- 2 共産主義へのアメリカ的な道：マルクス・エンゲルス・レーニンのアメリカ論
→「否定の否定」のあらたな媒介項